

Ridley Medal



西 起史 院長は
2008 年 9 月 15 日ドイツ・ベルリンで開催された
欧州眼内レンズ屈折手術学会(ESCRS)で
眼科最高峰の **Ridley Medal** を受賞しました。
詳しくは「西眼科だより 10 巻 4 号」を御覧ください。

Jan Worst Medal



(院長)西 起史は 昨年に続き、2008 年(本年)
Jan Worst Medal という名誉ある賞を受賞しました。この
賞は世界の白内障眼内レンズ・屈折矯正手術分野(眼科)
の研究で最も優れた業績をあげた眼科医に与えられる最高
に名誉ある賞です。2008 年 4 月 4 日-9 日 アメリカ
Chicago で開催の ASCRS/ASOA で受賞記念講演(4 月
6 日)を行いました。





Highlights: Monday, April 30

The Innovators Session, 10:00-11:30 am will feature **Okihiro Nishi, MD** presenting the **Charles D. Kelman Innovator's Lecture**, "Approaches to Future Cataract Surgery." Preserving capsular bag transparency is an important issue for the future of cataract surgery. In this lecture, a new theory of the pathogenesis of posterior capsule opacification (PCO), which may consistently explain multiple findings in the development of PCO in recent cataract surgery, and a novel capsular bag refilling technique using a new accommodative intraocular lens (IOL) to restore accommodation will be presented.

(院長)西 起史は 2007 年度

Charles D. Kelman Innovator's Award という名誉ある賞を受賞しました。

この賞は世界の白内障眼内レンズ・屈折矯正手術分野(眼科)の研究で最も優れた業績をあげた眼科医に与えられる最高の名誉ある賞です。2007 年4月 27 日-5月2日 アメリカ San Diego で開催の ASCRS/ASOA で受賞記念講演(4月 30 日)を行いました。



院長 西 起史が 2002 年の DOG (Deutsche Ophthalmologische Gesellschaft) ドイツ眼科学会に引き続き **Dgii (Deutschsprachige Gesellschaft fuer Intraokularlinsen-Implantation und Refraktive Chirurgie)** ドイツ眼内レンズ屈折手術学会の名誉会員 に選ばれ、2005年2月18－19日ドイツで記念講演を行いました。



左:Duy-Thoi Pham
(ドイツ眼内レンズ屈折手術学会長)

右:西 起史(院長)





『2002 年 9 月ベルリンにて、**ドイツ眼科学会(Deutsche Ophthalmologische Gesellschaft, DOG)名誉会員**に選ばれました。Machemer, Naumann, Lincoff, Deutmann, Harms, Rohen, Roper-Hall, Zimmermann 等が名を連ねています。恐らく日本人としては初と思います。これには相当の国際的な仕事と、ドイツ眼科学に対する貢献が条件の様です。これ迄に何度もドイツの色々な学会で講演、シンポジウム、von Graefe's Lecture 等を行って来ましたが、「眼病理学」の翻訳、それも改訂第 2 版の翻訳が大きく評価されたからだと考えております。この点でこの栄誉は私だけでなく共同訳者の先生方にも与えられたものと思っております』 ... 西 起史



左:第1版「眼病理学」西 起史 訳
987 年日本語版出版



右:改訂第2版「Pathologie des Auges」
Prof.Naumann 著



2003 年 1 月 第 2 版「眼病理学」日本語版出版



現在までに様々な学会から数々の賞を受けています